

死亡災害ゼロ・アンダー190 伊勢

令和7年
4月号

令和6年 労働災害発生状況

伊勢労働基準監督署
確定 値

伊勢労働基準監督署管内（伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡）において令和6年1月1日から12月31日に発生した、休業4日以上之死傷者数（新型コロナウイルス感染症に係る疾病者を除く。）が確定しました。**死亡者数は2人、休業4日以上****の負傷者数は267人**となっています。業種別では、小売業（50人）が最も多く、次いで製造業（42人）、社会福祉施設（40人）と続きます。

事故の型別では、「転倒（91人）」が最も多く、次いで「墜落・転落（43人）」、「無理な動作・動作の反動（40人）」と続きます。

労働者の行動に起因する行動災害（転倒、腰痛等）が、全体の約半数を占めています。

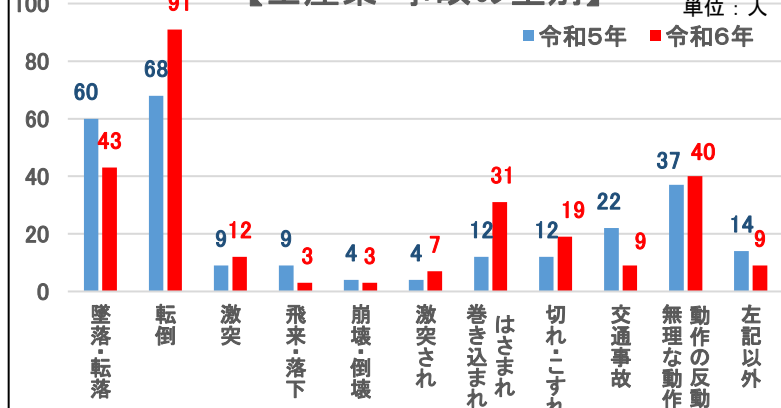
FC. ISE-SHIMA と連携し、選手実演の腰痛・転倒予防体操を公開しておりますので、是非ご活用ください。



【令和6年 休業4日以上之死傷災害発生状況 伊勢署】

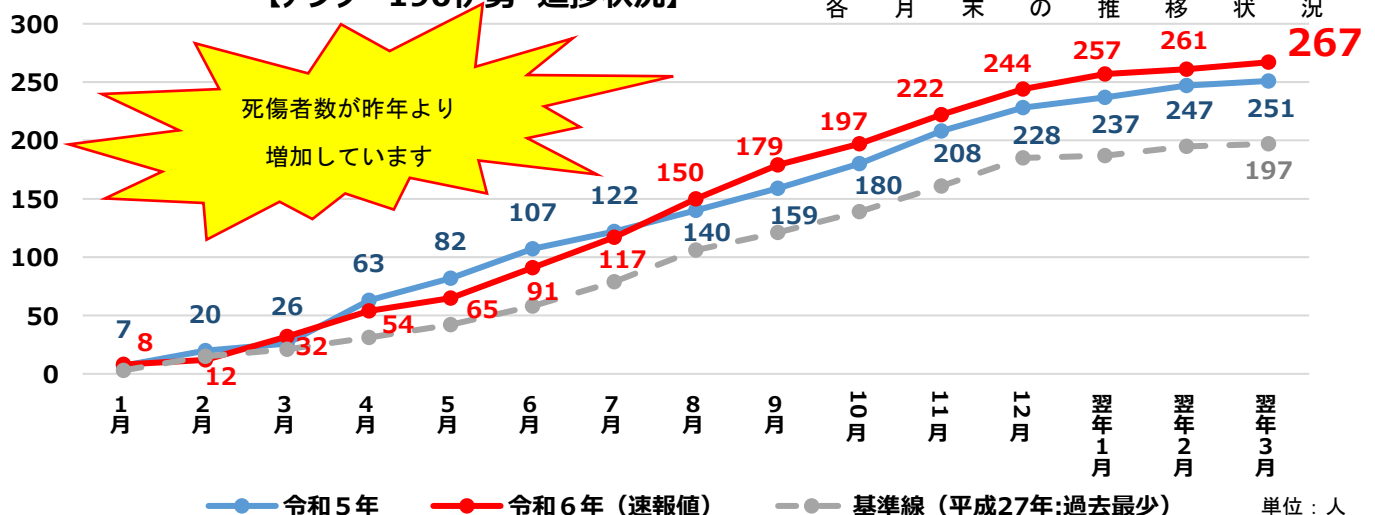
	令和5年		令和6年		前年比	
	死亡	死傷	死亡	死傷	(死亡)	(死傷)
全業種	1	251	2	267	+16	+6.4%
製造業		39		42	+3	+7.7%
建設業	1	36	1	27	-9	-25.0%
道路貨物運送業		9		15	+6	+66.7%
林業		7		6	-1	-14.3%
小売業		44		50	+6	+13.6%
社会福祉施設		26		40	+14	+53.8%
旅館業		25		19	-6	-24.0%

【全産業・事故の型別】



【アンダー190伊勢 進捗状況】

休業4日以上の死傷者数
各月末の推移状況



令和7年 死亡災害ゼロ

アンダー190 伊勢 推進運動

伊勢労働基準監督署では、第14次労働災害防止計画（期間：令和5年～令和9年）により、死亡者数0人、死傷者数190人未満を目指して計画を推進していますが、令和6年は、**死亡者数2人、死傷者数267人（確定値）**となりました。

労働災害の減少を目指し、特に、労働災害の発生が多い業種や労働災害の種類などを踏まえて重点対象を定め、**令和7年「死亡災害ゼロ・アンダー190 伊勢」推進運動**を展開することにしたしました。管内事業場の皆様におかれましては、引き続き、自事業場での労働災害撲滅を目指し、労働災害防止対策に取り組みましょう。

【重点業種】

- 道路貨物運送業
- 第三次産業
（特に小売業、社会福祉施設）

【重点対象災害】

- 機械災害
- 行動災害（転倒災害・腰痛災害等）
- 高年齢労働者による災害

主な取り組み

- ◆ 安全衛生情報トピックスの発信（毎月更新）
- ◆ 安全衛生管理計画による自主的安全衛生活動の促進
- ◆ 道路貨物運送業を対象とした安全研修会の開催
- ◆ 第三次産業を対象とした安全研修会の開催
- ◆ 機械災害防止研修会の開催
- ◆ 行動災害防止研修会の開催
- ◆ 高齢労働者の体力・健康チェックの促進（全国労働衛生週間）
- ◆ FC.ISE-SHIMAとの連携による行動災害防止活動

令和7年6月1日から「**職場における熱中症対策**」が強化されます

令和6年は、伊勢署管内だけでも職場で3人の熱中症が発生したほか、全国における熱中症による被災労働者は1195人（うち死亡30人）にのぼります。また、令和7年6月1日からは、熱中症に係る事業者の**義務が強化**されます。近年、熱中症が増加していることを踏まえ、**STOP! 熱中症クールワークキャンペーン**の実施事項と併せて熱中症対策を徹底してください。

基本的な考え方

※「WBGT28度以上又は気温31度以上の環境下で連続1時間以上又は1日4時間を超えて実施」が見込まれる作業時

現場における対応

熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処することにより、熱中症の重篤化を防止するため、「**体制整備**」、「**手順作成**」、「**関係者への周知**」が事業者には義務付けられます。

見つける

判断する

対処する

STOP! 熱中症クールワークキャンペーン特設サイト（厚労省HP）
→→→



令和7年「STOP! 熱中症クールワークキャンペーン」リーフレット（PDF）
→→→



「職場における熱中症対策の強化について」パンフレット（PDF）
→→→



お問合せ先 伊勢労働基準監督署 安全衛生課

TEL 0596-28-2164

伊勢労働基準監督署からのお知らせ 検索

死亡災害ゼロ・アンダー190 伊勢

令和7年
5月号

令和7年 労働災害発生状況

伊勢労働基準監督署
速 報 値

伊勢労働基準監督署管内（伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡）において令和7年1月1日から4月末日に発生した、休業4日以上之死傷者数（新型コロナウイルス感染症に係る疾病者を除く。）は、令和7年4月末時点で当署に報告があったもので、**死亡者数は0人、休業4以上の負傷者数は54人**となっています。

業種別では、**製造業（10人）、小売業（10人）**が最も多く、次いで**建設業（6人）、社会福祉施設（4人）**と続きます。

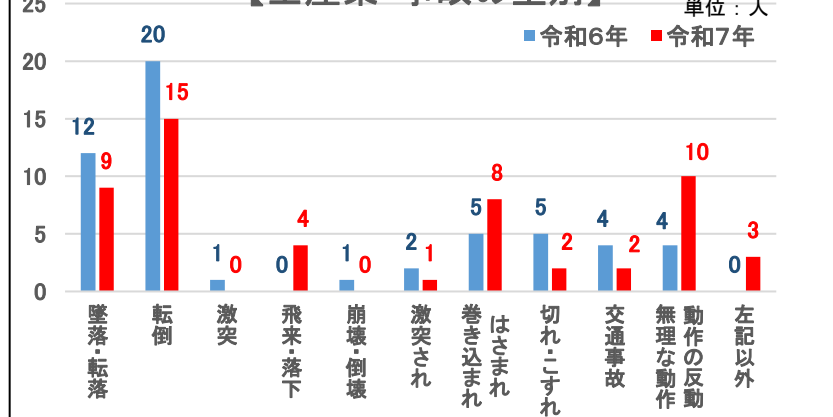
事故の型別では、「転倒（15人）」が最も多く、次いで腰痛など「無理な動作・動作の反動（10人）」が続きます。また、2m未満からの「墜落・転落（9人）」災害也多発しています。

物を跨いで移動した箇所（躓きやすい箇所）はありませんか？ 体に負担のかかる体勢で作業を続けていませんか？ 棚の上の物を取る時、安易に椅子などにのぼっていませんか？ この機に、事業場に潜むリスクを洗い出してみましょう。

【令和7年 休業4日以上之死傷災害発生状況 伊勢署】

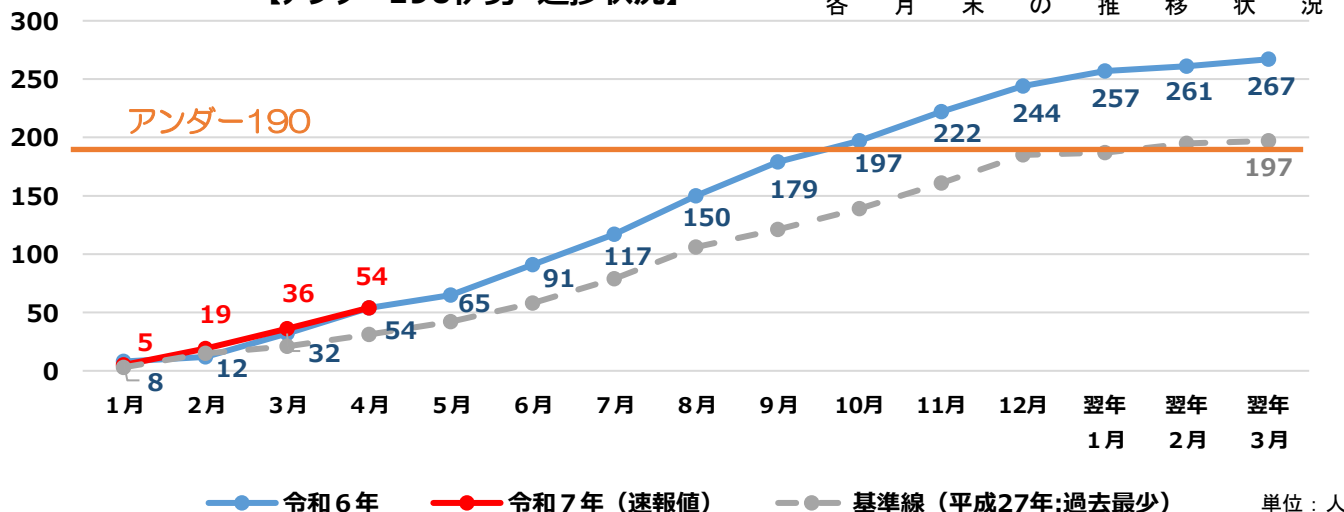
	令和6年		令和7年		前年比	
	死亡	死傷	死亡	死傷	(死亡)	(死傷)
全業種		54		54	±0	±0.0%
製造業		9		10	+1	+11.1%
建設業		6		6	±0	±0.0%
道路貨物運送業		6		3	-3	-50.0%
林業		1		2	+1	+100.0%
小売業		8		10	+2	+25.0%
社会福祉施設		7		4	-3	-42.9%
旅館業		7		2	-5	-71.4%

【全産業・事故の型別】



【アンダー190伊勢 進捗状況】

休業4日以上の死者数
各月末日の推移状況





実施要項（中災防 HP）

令和7年度（第96回）

全国安全週間を実施します！



準備期間：令和7年6月1日～6月30日 実施期間：令和7年7月1日～7月7日

今年で98回目となる全国安全週間は、労働災害を防止するために産業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目的としています。

厚生労働省では、7月1日（火）から7日（月）までを「全国安全週間」として、各職場における巡視やスローガンの掲示、労働安全に関する講習会の開催など、さまざまな取組を実施します。この機に、労使一丸となって労働災害防止に取り組みましょう。

「多様な仲間と 築く安全 未来の職場」



令和7年 死亡災害ゼロ・ アンダー2,000 みえ推進大会開催！

令和7年
7月2日

三重労働局では、第14次労働災害防止計画に基づいて死亡災害ゼロ、死傷者数2,000人未満を目指し、「令和7年 死亡災害ゼロ・アンダー2,000 みえ推進運動（期間：令和7年1月～12月）」を実施しています。

つきましては、安全衛生に係る機運醸成を図るため、令和7年7月2日に三重県総合文化センター（津市一身田上津部田 1234）にて、「令和7年 死亡災害ゼロ、アンダー2,000 みえ推進大会」を開催いたします。労働者の作業行動を起因とする「行動災害」の防止を主眼とし、**活動事例発表、特別講演「高齢労働者における転倒災害の現状と防止対策」**等により、参加事業場における今後の災害防止活動の参考となる内容となっておりますので、ぜひご参加ください。



6月から熱中症予防対策が義務化されるけど、熱中症対策に役立つ用品ってどんなものがあるのか直接見てみたいな・・・

考えつく対策は全部やって努力しているつもりなのに、転倒災害が起きてしまう・・・他の会社はどんな対策をしているんだろう？

会場ロビーにて

- ・熱中症防止
- ・転倒、腰痛災害防止に関する用品、用具の展示を実施しています。

参加申込みはQRコード
又はこちらをクリック↓

[説明会等受付サイト](#)

※クリックでサイトに飛びます。



お問合せ先 伊勢労働基準監督署 安全衛生課

TEL 0596-28-2164

伊勢労働基準監督署からのお知らせ 検索

死亡災害ゼロ・アンダー190 伊勢

令和7年
6月号

令和7年 労働災害発生状況

伊勢労働基準監督署
速 報 値

伊勢労働基準監督署管内（伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡）において令和7年1月1日から5月末日に発生した、休業4日以上之死傷者数（新型コロナウイルス感染症に係る疾病者を除く。）は、令和7年5月末時点で当署に報告があったもので、**死亡者数は0人、休業4以上の負傷者数は75人**となっています。

業種別では、**製造業（13人）、小売業（13人）**が最も多く、次いで**建設業（9人）、社会福祉施設（7人）**と続きます。事故の型別では、「転倒（24人）」が最も多く、次いで腰痛など「無理な動作・動作の反動（14人）」が続きます。転倒・腰痛災害は、高齢労働者に起こりやすい災害です。災害を事前に防ぐため専門家へのリスクアセスメント・運動指導の依頼や、事業場の設備を直した際にかかる費用の一部を助成する**エイジフレンドリー補助金（→）**等を活用し、職場環境の改善に力を入れましょう。

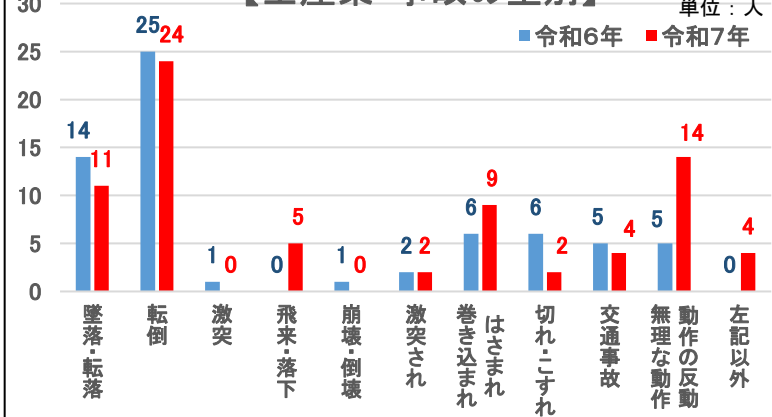


https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09940.html

【令和7年 休業4日以上之死傷災害発生状況 伊勢署】

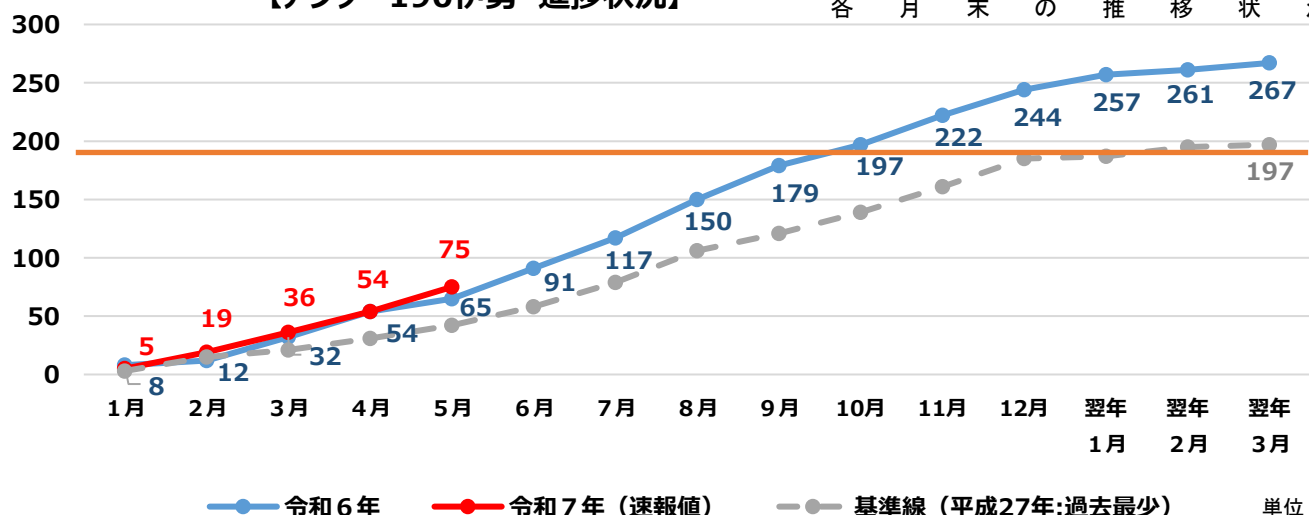
	令和6年		令和7年		前年比	
	死亡	死傷	死亡	死傷	(死亡)	(死傷)
全業種		65		75	+10	±15.4%
製造業		10		13	+3	+30.0%
建設業		7		9	+2	+28.6%
道路貨物運送業		6		3	-3	-50.0%
林業		2		2	±0	±0.0%
小売業		11		13	+2	+18.2%
社会福祉施設		8		7	-1	-12.5%
旅館業		9		3	-6	-66.7%

【全産業・事故の型別】



【アンダー190伊勢 進捗状況】

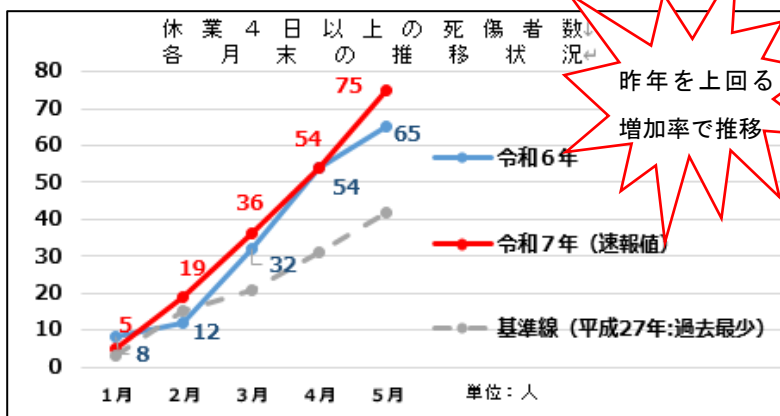
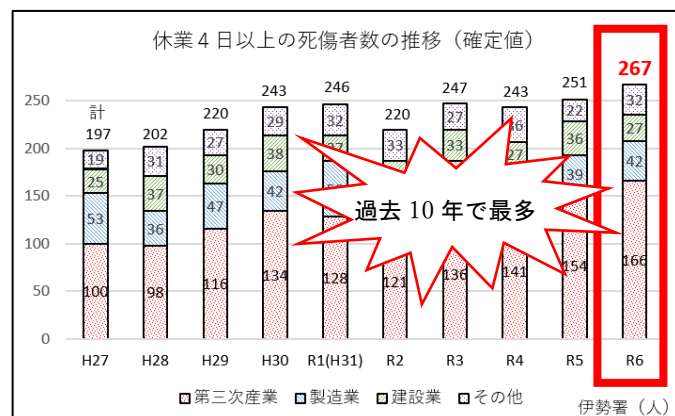
休業4日以上の死者数
各月末日の推移状況



伊勢署管内で労働災害が昨年より増加しています！！

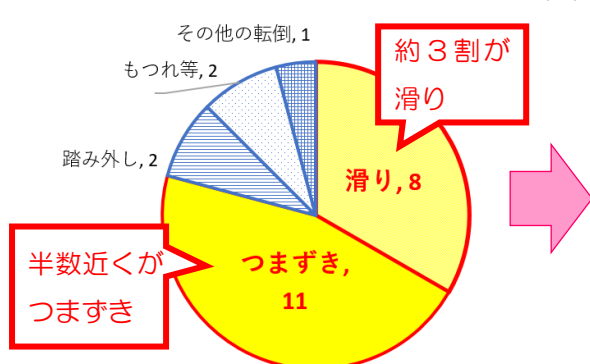
まさかこんなところで怪我をするなんて！ と思う場所でこそ災害は発生します。

伊勢労働基準監督署管内では、昨年（令和6年）267人の労働災害が発生し、過去10年間で最悪となりました。本年（令和7年）は、5月末現在、すでに75人の労働災害が発生しており、昨年同期より大きく増加しています。以下に管内の災害傾向と対策関連資料等の情報をまとめましたので、これらを参考に、効果的な災害防止対策を行いましょう。



◎ 転倒災害（全体の約3割）

伊勢署 R7.5末速報値における転倒災害の内訳（人）



伊勢署管内では、以下の原因でのつまずき、滑りによる災害が目立ちます。自社に該当する箇所はないか見直しましょう。



作業場や通路の設備、什器、家具に足を引っかけて転倒
➤設備、什器等の角の「見える化」



作業場や通路のコードなどにつまずいて転倒
※引き回した労働者が自らつまずくケースも多い
➤転倒原因とならないよう、電気コード等の引き回しのルールを設定し、労働者に遵守を徹底させる



作業場や通路にこぼれていた水、洗剤、油等により滑って転倒
➤水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。
（清掃中エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してから開放の徹底）

◎ 墜落・転落災害（全体の約1.5割）



伊勢署管内では、特に高いところの物を取ろうと脚立や椅子にのぼったり、作業のため機械設備等の上に乗ったりした時など、数十cmの高さからの墜落による骨折等が目立ちます。7月は墜落災害防止強調月間です。右のチェックリストをダウンロードして災害を事前に防ぎましょう。



<https://jsite.mhlw.go.jp/mie-roudoukyoku/content/contents/002279227.pdf>

◎ 無理な動作・動作の反動（全体の約2割）



重い物を持ち上げて腰痛を発症したり、体を無理な方向にひねって筋を痛めたりといった災害が多いです。

体に負担を強いる作業手順になっていないか見直すほか、EI

ジフレンドリーガイ

ライン（QR左）

や腰痛予防対策指針

（QR右）を参考に

取り組みましょう。



https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kou_roudou/roudoukyoku/zen/newpage_00007.html



https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/131114_01.pdf



お問合せ先 伊勢労働基準監督署 安全衛生課

TEL 0596-28-2164

伊勢労働基準監督署からのお知らせ 検索